

交通

川中島であった中原村の交通は、渡し舟により、対岸と行き来していた。舟着き場・波止を設け、対岸の、上ノ原と平瀬、上ノ原と段原、中ノ原と玉柏、中ノ原と原、下ノ原と宿、下ノ原と祇園、下ノ原と今在家など。

中世の山陽道

また、下ノ原の舟着き場に旅の安全をお祈りする大師堂が設けられ、その西三叉路に、釣りの渡しの西の妙見宮の奉燈がある、これは、中世の備前国府から西へ行く主要道路が通っていたことも想定できる。

県道原・原尾島線

昭和26年中原橋(木の橋)がつくられ、下ノ原と祇園の間にも橋(大師橋)で繋がり、県道原・原尾島線として、県管理の道路が開通した。

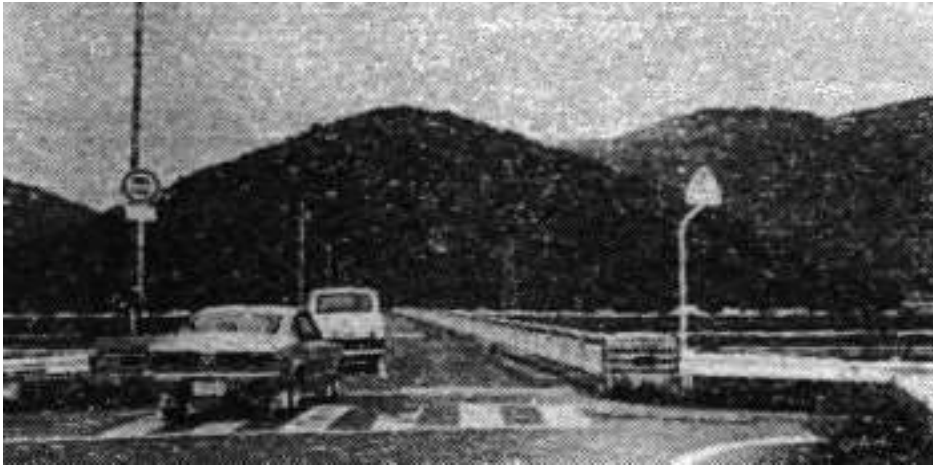
この中原橋は、木の橋で高さも低いため、洪水に度々流されその都度架け替えていた。



昭和27年(西からのぞむ)

県道 原・藤原線

昭和33年鉄筋コンクリートによる中原橋車道部分が完成開通し、県道原・藤原線となり、中原橋から祇園西交差点を結ぶ道路へとつけかえられ、自動車が十分通行できる道路となった。



昭和49年(東からのぞむ)

昭和50年に、中原橋歩道部分が完成歩行者などの安全がはかられた。

平成8年渋滞緩和のため、中原橋西詰の拡張工事が行われた。

平成16年12月31日、県道岡山吉井線横断の地下道が完成した。



妙見宮奉燈

下ノ原の集落の三叉路に、氏子の建立した、妙見宮奉燈がある。

妙見宮は現在の岡山市三野の妙見山に在る天神社の古名である。

旭川の本流が東大川(明星川)の時代には西大川(現在の旭川)の流れは少なく川幅も狭かったと推定される。明治

初頭の国土調査資料(中原村小字区画図)からも、岡山市三野との間に近く中原村の高川原がある。

したがって、下ノ原から参拝する道筋があったと推定される。。



解説図

